

ビジネス学部3年生・田村 貴浩さんが日本経営システム学会全国研究発表大会で受賞

第54回日本経営システム学会全国研究発表大会で、ビジネス学部3年生・田村貴浩さんが「学生発表優秀賞」を受賞しました。

全国の大学から教員や大學生が参加する中で、学院生として受賞に至ったのは同学会でも初の快挙です。田村さんの研究テーマは「技術革新の効果を考慮した資源循環

の分析モデル」。鄭ゼミに所属し、ビジネスの視点から「環境問題」にアプローチした研究に励んでいます。田村さんは、「鄭

先生の『自信を持って挑戦しよう』という言葉を胸に、今後も努力を重ねま

す。後輩指導にも力を注ぎ、学会発表に挑む後押し

しがしたいと考えています」と力強く語りました。



卒業生・加藤大貴さんが世界なぎなた選手権大会で3位入賞

現代社会学部現代社会学科メディアプロデュースコース(現・メディアプロデュース学部)を2008年3月に卒業した加藤大貴さんは、高校時代からなぎなたに打ち込み、大学4年間、なぎなた部で活躍しました。卒業後、IT分野の企業に就職してからもなぎなたを続けて、鍛錬を重ねています。



第2回オープンキャンパスに4720人が来場!

7月25、26日に「第2回オープンキャンパス」が長久手・星が丘両キャンパスにて開催され、合計で4720人が本学を訪れました。第2回のオープンキャンパス限定で行われる、「模擬授業」や「公募制推薦入試対策講座」では、多くの方が熱心に受講する姿が見受けられました。

また、教員が自身の学科・専攻の魅力を伝える「学科・専攻説明」、入試方針や併願方法などを知ることができる「入試説明」などの企画も好評でした。さまざまな企画内容で、愛知淑徳大学の学びを体感することができた2日間。来場した皆さんには、充実した1日を過ごされていました。



2014年度留学生別科修了式

5月20日、2014年度留学生別科修了式が国際交流会館にて挙行されました。8か国15人の修了生が式に臨み、島田学長から修了証書を受け取りました。修了生を代表し、交換留学生、金寅星(キム・インソン)さんが、別科教員、友人、国際交流センタースタッフへの謝辞



「藤本壮介展 未来の未来」愛知巡回展

毎夏、著名な建築家の展覧会を誘致し、学生の手で会場

講演会も行われました。

設計から施工までを行う授業「デザインワークショップI」は、全国でも珍しい、貴重な経験の場となっています。

今年度はユニークな空間が世界から注目されている建築家、藤本壮介氏による「藤本壮介展 未来の未来」

展。7月25日から16日間開催され、8月9日には氏による

了。

どうしたら藤本氏の建築觀にふさわしい、ワクワクするような会場をつくりあげる事ができるか毎日遅くまで議論を重ね、案が決まってからは美しく仕上がるよう設計を練り上げていく。「単位にはとても釣り合わないけど、青春を捧げる価値があった」という学生の感想を聞いて、学ぶ事の本当の価値を再認識させて貰えました。

晴れやかな秋の日、第37回愛知淑徳大学同窓会が開催されました。短大・大学の同窓生を中心に先生方のご出席も賜り、450人を超える皆様のご参加を頂きました。

短大同窓生による祝演奏が行われました。愛知淑徳大学同窓会は6万人以上の会員を有する同窓会と共に和やかに昼食が始まなりました。今後共尚一層の華やかな歌と音楽で、会場全体が幸せで楽しい申しあげます。



8月21日～29日、中3から高2の生徒16人でマルボルンに研修に出かけました。夏休み前に事前学習を行い、オーストラリアについての知識を深めてから出発しました。

現地では、班別自由研修やミュージカル鑑賞を行いました。24日午後に姉妹校キヤサリンズ校に到着。ホストシスターにあたたかく迎えられ、それぞれの家庭や寮に向かい



共に歩む未来へ ホームカミングパーティ

ました。全体集会では本校の学校紹介やソーラン節を披露し、大喝采を浴びました。日本語の授業などにも参加し、交流を十二分に楽しみました。

異文化の中で過ごし、戸惑うこともありました。充実した時間を過ごしました。

12月に予定されているセントキヤサリンズ校生徒たちにあたたかく迎えられ、ちの本校訪問を楽しみにしています。

オーストラリア研修旅行

た。12月に予定されているセントキヤサリンズ校生徒たちにあたたかく迎えられ、ちの本校訪問を楽しみにします。



高校3年生の稻熊穂乃里さんが オーストラリア科学奨学生として留学



文部科学省が「オーストラリア科学奨学生」として選抜された日本代表9人の一人として、愛知淑徳高等学校3年生の稻熊穂乃里さんが、シドニー大学内物理学財団が開催する「高校生のための国際科学学校」に派遣されました。6月～7月の2週間、オーストラリア、中国、インド、イギリスなどの高校生約140人とともに、物理に関するレクチャー語りました。



中国 南京一中訪問

8月21日～25日の日程で、生徒同士の交流を温めた
中3から高2まで各2人 中3から高2の40人で
と教員2人の計8人の訪
と教員2人の計8人の訪
中団で、中国の南京市の名
門学校である南京第一中学
校を訪れました。2000 年度に姉妹校提携を結ん
で以来、南京第一中学校と
はこれまで親密な関係を
築いていますが、今年
度も7月下旬に南京一中
の生徒たちが本校を訪れ、

その後の訪問となりました。訪
中団を組んで生徒を派遣
するには昨年度に引き続
き今回で2度目の試みで
したが、昨年にも増して手
厚い歓迎を受け、2日間の
ホームステイなどを通し
て生徒同士の交流を行い、
大変実りの多い研修旅行
となりました。



夏山登山

今年の夏山登山は、7月
27日～31日に中1から高3
まで40人が参加し、北アル
プス立山へ登りました。名
古屋からバスで富山側から
弥陀が原を経て、室堂に入
りました。そして、雷鳥荘
から立山最高峰の雄山を
目指しました。雪渓が残る
道を登り、参加者全員が頂
上に立つことができまし
た。それから一の越山荘に

宿泊した後、五色が原まで
縦走を楽しみました。豊か
な高山植物が咲き乱れる
中、ザラ峰を経て五色が原
に到達しました。帰りは往
路をたどって雷鳥荘へ戻
りました。温泉で汗を流しまし
た。立山博物館で立山の歴
史や自然を学びつつ名古
屋へと戻りました。



イングリッシュセミナー

8月16日～18日、長野県
木曽郡木曽町で開催され
たイングリッシュセミナー
に、本校の中学生・高校生
39人が参加しました。アメ
リカ人ボランティアによる
プログラムが実施され、生
徒たちは終日英語漬けの
生活を体験しました。最初
は戸惑いながらも徐々に
自分の英語が通じる楽しさ
を感じていました。今回

で2回目の参加となる中3
谷口零さんは「外国人の人と
は言語だけでなく文化が
違うから、こどばの捉え方
も違うということに気づ
きました。普段、距離を感
じる先輩や後輩に対して
も英語を使うことで仲良
くでき、協力して活動でき
ました。英語には敬語がな
いからだと思いました」と
話してくれました。



社会科研修旅行

8月6日～8日の3日間、中3から高2の40人で
社会科研修旅行に出かけ
ました。6日は、卒業生が
働く日本銀行をはじめ、
国土交通省、警視庁、衆議
院議長公邸を見学し、浅
草寺の散策や浅草演芸
ホールでの寄席も楽しみ
ました。7日は、6月から
準備を進めてきた班別研
修。自分たちで作り上げた

行程にそつて外務省、防
衛省、東京地方検察庁、
朝日新聞、講談社などを
巡りました。そして最終
日は国會議事堂、築地市
場、上野公園を訪れまし
た。行く人々であたたか
なおもてなしを受けて、
よく学んだ3日間。気温
37.7度を記録した酷暑
の中、「淑徳魂」で東京の
街を歩き回りました。



Campus Topics

中学校・高等学校

中2 林間研修

5月11日～14日の期間に、二班にわかれ2泊3日で、中2が林間研修に参加しました。最終日は、班ごとに飛騨一ノ宮。ミニ登山や各民宿でのおはぎ作り・五平餅作りなど

の食体験、天体観測やムササビ観察などを実行しました。翌朝はクラスごとに田植えに挑戦し、その後、淑友館へ移動。キャンプファイヤーで披露するスタンツ

の練習や、家族に手紙を書くプログラムを取り組みました。

書くプログラムに取り組みました。最終日は、班ごとに高山市内へ。施設見

学、高山名物やお土産選びなどを楽しむ姿があちこちで見られました。

親元を離れて仲間と過ごした日々は意義深く、また飛

騨の方々との触れ合いはあたたかな思い出になつたことでしょう。



2015年度 中学校オープンスクール

6月6日に、中学校オーブンスクールを開催しました。生徒発表、学校入試紹介を行った説明会のほか、約30のミニ体験授業やクラブ・同好会による体験・披露が行われ、約2300人の参加がありました。前日の雨のためグラウンドコンディションが危ぶまれましたが、生徒の懸命の整備によりクラブ体験ができます。ぜひご参加ください。



2015愛知岐阜私立中学校進学フェア開催

愛知・岐阜県内の私立中学校26校が参加した進学フェアが、7月25、26日にウインクあいちで行われました。本校のブースは終日来場者で賑わい、2日間で188組が訪れました。

プレゼンテーションやディスカッションの大会では本校生徒会執行部の生徒が活躍し、また、制服試着コーナーでは本校の制服

は予約が殺到するほど人気を集めました。受験を控えた6年生だけでなく、5年生以下の児童や保護者の方の参加も多く、本校に関しては入試や進路指導、補習授業、施設、クラブ活動についての質問が寄せられ、愛知淑徳の教育に対する期待と関心の高さが伝わってきました。

